

東海市立横須賀小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	転学	計	教員数
学級数	5	5	4	4	4	4	3	29	38
児童数	172	163	140	150	137	144	15	921	

- 1 本年度当初、本校が抱えていた「総合的な学習の時間」の課題
  - 「体験活動」＝「総合的な学習の時間」ではないことは理解できている。しかし、どのように体験活動を「総合的な学習の時間」に位置づけていけばよいか。
  - 「問題解決能力」の定義と、その力を育成するための学習活動の展開の仕方を考えること。
- 2 モデル地域としての研究主題の受け止め方と目標設定
  - 研究指定初年度なので、東海市のモデルプランを参考にして実践をする中で、研究主題に迫るための手だてを見つけたそうとした。(合い言葉「まず、実践！」)
  - 「総合的な学習の時間」における「英語活動」や「日本文化体験活動」の2つに力点を置いて実践を積み上げた。
- 3 平成15年度の実践・成果と課題
  - 授業実践及び研究授業の実施
    - ・東海市のモデルプランに書かれた内容を参考に、ALTや教務主任、現職教育主任と相談を積み重ねながら、授業実践や研修会を実施した。  
(研究授業3回・授業公開6回・研修会5回)
  - 保護者への公開
    - ・どのような学習活動を展開しているのかを見ていただくため、また、意見・感想を次の実践に生かすために保護者への授業公開を行った。(授業公開5回)
  - 成果と課題
    - <成果>
      - ・知識・技能面の向上が見られた。(英語そのものの知識<単語・基本的な表現>、外国人との接し方、日本文化への関心、日本文化に対する知識、コンピュータリテラシー、福祉・環境等に対する意識 等)
    - <課題>
      - ・主体的な学習態度や「問題解決能力」の育成はまだ十分達成できていない。
      - ・子どもの実態に即して、「問題解決能力」を捉え直して、学習活動を展開していかなければならない。
      - ・全教育活動において、さまざまな取組をしていかなければ、「総合的な学習の時間」の充実はない。
- 4 本年度の課題を踏まえて平成16年度の構想
  - 全教育活動を通じて、研究主題に迫るようにする。
  - 教育課程上の「総合的な学習の時間」の位置づけを明確にして実践に取り組む。
  - 「総合的な学習の時間」の目標・ねらい・身につけさせたい力等を全職員で共通理解した上で、実践に取り組む。
  - 「総合的な学習の時間」を展開するにあたっては、「何を目標とする時間なのか」(身につけさせたい力)を保護者・児童に理解させた上(分かりやすい言葉にして説明した上)で実践に取り組む。

めざす学校像  
支え合い、分かち合う学舎

「夢」のある横須賀小学校  
・夢を語れる教師集団 ・夢のもてる教育活動 ・夢のある教育環境

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領
- ・愛知県教育委員会の指導
- ・東海市教育委員会の指導

学校教育目標  
・あかるく  
・たくましく  
・心豊かに

- <子どもの実態キーワード>  
・格差・コミュニケーション能力  
<保護者の願いキーワード>  
・受験学力の向上 ・物的豊かさ  
<地域の願いキーワード>  
・協力 ・連帯感  
<社会の要請キーワード>  
・問題解決能力 ・情報処理能力

教育課程編成上の基本方針  
・「話す・聞く」力の育成を柱として、「確かな学び」の土台となるコミュニケーション能力を育む教育課程を編成する。  
<重点努力目標>  
ア 学校生活のあらゆる場面の繰り返し指導により、「聞く・話す」力を向上させる。  
イ 全ての児童が安心して「学ぶ」ことのできる集団づくり・環境づくりを行う。  
ウ 全ての児童に、基礎的・基本的事項の定着を図る。  
エ 全ての児童に「学び」が成立する授業を展開する。  
オ 総合的な学習の時間を本校の教育活動を特色づける確かなものとする。

研究の重点  
進んで人とかかわり、自分の思いを豊かに伝え合う児童の育成  
～「話す・聞く」力の育成を柱とした教育活動を通して～

- 地域との関わり
- ・外部講師
  - ・祭り保存会
  - ・友遊サタデー
  - ・PTAとの協力
  - ・市役所
  - ・しあわせ村

内容	3年	4年	5年	6年	名称
日本文化体験活動 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢の者と「かかわる力」を身につける。</li> <li>・日本文化の特徴である「型」を大切とする学び、学び方を習得する。</li> <li>・日本文化について理解を深めるとともに、学習を通して身につけたものを「伝え合う力」を身につける。</li> </ul>				ヤマト
英語活動 20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を通して、外国人の人や友達と「かかわる力」を身につける。</li> <li>・繰り返すことで技能を習得するという学び方を習得する。</li> <li>・身につけた英語表現を使い、自分の意思を「伝え合う力」を身につける。</li> </ul>				ワールド
情報基礎 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を書くことができる。</li> <li>・ネットワークを利用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を書くことができる。</li> <li>・簡単なプレゼンテーションができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを利用することができる。</li> <li>・効果的なプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ操作の基礎的な知識・技能を身につけるとともに、情報処理能力を身につける。</li> </ul>	IT
問題解決的・体験学習的なユニット学習 55	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の学習や総合的な学習の時間の中で自然に身につくように指導していく。</li> <li>・問題を解決した・解決しようとした過程で感じたことや考えたことを「伝え合う力」を育てる。</li> <li>・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。</li> <li>・横須賀小学校独自の総合的な学習のプログラムを作成し、実践する時間</li> </ul>				総称 未来
	地域(祭り・農業)	福祉	環境	国際理解	
	・東海市のモデルプランを参考にし、本校の児童の実態に即して展開する時間				
	水の大切さ トマトジュース 生と死	愛知用水 生と死	水のない生活 水源地 平洲先生	排水と廃水 生と死	

- 生活科との関わり
- ・友達と仲良く活動する。
  - ・すすんでかかわろうとする。
  - ・身の回りの自然や人々に触れながら、どうしてという思いがもてる。
  - ・聞く人にわかりやすく発表できる。
  - ・気づきを自分の生活に生かす。

- 道徳  
生命尊重  
愛国心  
郷土愛  
福祉  
自然

- 関連する能力や技能等
- 国語……表現する力・理解する力・言語についての知識
  - 社会……社会事象への関心・資料活用能力・表現能力
  - 算数……測定能力・論理性・グラフ等の表現力
  - 理科……観察・実験力・道具を扱う技能・課題設定力
  - 家庭……日常生活における基礎的スキル
  - 体育……安全への配慮
  - 音楽・図工……鑑賞力

- 特別活動  
話し合いの仕方  
自主的・自発的な活動